

事業報告書 団体名:NPO 法人打楽器コンサートグループ・あしあと

事業名	こころに響く打楽器つくっちゃお♪
【計画時の事業目的(取組課題)と実施効果】	
<p>【事業目的】</p> <p>様々な障がいを持つ子供たちとその母親、保護者にスポットを当てたイベントにする。オリジナル打楽器を作り、その楽器と共に生の本格打楽器を気軽に楽しむ体験型コンサート。見る、聴く、触る、そして、作るという項目を加え、五感に刺激し、子供の成長過程と一緒に音楽アートで楽しむ日とする。イベントに出かけられない状況下で問題を抱えている児童達と共にその保護者の集まる施設に出張する。</p> <p>プログラムは子ども達に親しみのある曲を演奏し、オリジナル製作打楽器とのコラボレーションも行う。プロが使っている本格打楽器(マリンバ、ビブラフォン、ドラム、民族楽器の類など)に触れてみる機会も設け、本物の楽器の迫力を気軽に体験してもらおう。</p> <p>加えて今回のコロナウィルス感染状況の中、職を失い、障害児の預け入れ施設の不足問題がある。専業主婦にされた母親も子育ての中で周りに相談できる人、機関があまりないと感じリアルで会えないことによってよりコミュニケーション能力は低下している。コロナウィルス影響でイベント不足により子供にとって大事な幼少期、成長期の成長を止めないことが目的。この事業によりどんな障害や問題を抱えていても、母親今の子育てのこの一日一日の瞬間がかけがえのない時間である事を実感し、その子育て時代を自己肯定できるような子供との「特別の一日」を創り上げる。</p> <p>イベント開催日に母親や保護者・子供たち自身を今後も手助けしてくれるように思える人材、素材となる配信準備を揃えておく。SNS 寄やアンケートに寄せられた意見・悩みを抱える母とそれを助ける人材への橋渡し、子育ての情報、仕事情報、役立つ場所・施設、の周知・発信。この状況下でも母親・保護者の孤立化を防ぐきっかけづくり。また、イベント開催が施設側、行政側にとって潜在的に問題を抱える母親達を探し出す機会にもする。</p> <p>【実施効果】</p> <p>打楽器は振動がとても大きいので耳が聴こえなくても音を感じることができる。またピアノなどと違いバチや手元の動きが大きいため見ても楽しむことができる。手作り楽器も傾けても音が出るため障害の度合いに合わせ、手が効かない子には傾けて、持てる子には振って、叩ける子には叩いて音を出して一緒に合奏する。どんな子供たちも同じ曲で最大限でできることで一緒に演奏することができる。</p> <p>また、手作り楽器は派手な色のキットやもこもこの手触りのキットなど、弱視の子にもわかるものや、目が見えなくても手触りの違うもので楽しめるようにする。コロナの状況が芳しくない場合は個別包装し、家でも楽しめるよう《おうち時間》のイベントにしてもらう。</p> <p>コロナ感染症が収まらない昨今、障害を持つ子供たちは感染症に弱かったり、またアルコールアレルギーがあり消毒ができなかったり、マスクそのものを嫌がったりなど、ますます戸外の演奏会に出かけるのはリスクが高い。そのためホールなどの形でなく、感染など気を配った普段から通い入れた施設で行うことで、リスクの軽減を図る。そして飛沫感染がない楽器、アクリルカーテン越しでも聞こえる楽器、体験の際も使いまわしをしないでいい楽器、これらすべてをかなえるのが打楽器のみのコンサートといえる。</p> <p>またその施設内で母親同士の関わり、施設の人との関わり、あらゆる「社会との関わり」が出来、子育て情報や障害についての情報を得る機会となる。また、イベント開催することによって社会・行政の方から子育てに困難を極めている母親達に気づく可能性が高まる。母親たちはこれを機に悩みを共有できる仲間作りや、相談やカウンセリングが出来る機関を知るきっかけとする。子育てで安心・安全な居場所を知ってもらおう。</p> <p>リアルコンサートとオンラインコンサートのハイブリッド体制を全公演に準備する。感染症対策は開催への必須条件で施設からの信頼、当団体への期待に応える。そうした「条件付きのイベント」開催を心がける。また行政との細かい相談の元「安全なイベント」実現が重要。また物理的・心理的に来れない親子のためにオンラインライブ Instagram 配信。その開催場所となる施設の紹介、母親の悩みを相談できる場所への誘致などの内容も取り組む。子育て期を家でも子供と楽しく過ごすプログラム内容、いつかリアルで参加できるコンサートの希望を与える。</p>	

【実施結果】

【実施時期・スケジュール・場所】

- ①10月9日(土)10:30～11:50 @就労支援事業所あかね(多摩区) 参加者 50名
- ②11月6日(土)10:30～12:00 @就労支援事業所おおしま(川崎区) 参加者 50名
- ③12月4日(土)14:00～ @放課後等デイサービス ブロッサムジュニアよみうりランド駅前(多摩区) 参加者 30名
- ④2月6日(日)11:00～11:30 @神奈川県立高津養護学校音楽室(高津区)
(対象:放課後等デイサービス シャインさぎぬま) 参加者 30名

昨年度のparaアート報告会でお話しさせていただいた「社会福祉法人ともかわさき」さんからの紹介で、実施場所を決定できた。(うち1つはコロナ状況によりキャンセル)

各施設打合せの段階でなかなか実施日が決まらず、施設と会場の都合を考えた遅めのスタートとなった。

※アンケートから引用「感染者が落ち着いてきたので開催となった」

【内容】

①-A 一緒に作る 30分【作る・創造する】通常

・就労支援事業所おおしま(50名参加)1施設のみ当日オリジナル楽器制作。もともと作業所で毎日お仕事されている方々なので、作業機で行った。感染対策として、使いまわししないように飾りつけの接着剤などは、一人1個ずつ渡した。

①-B 一緒に作る 0分【作る・創造する】

・就労支援事業所あかね(50名参加)は、その日はお祭りだったので、当団体との合奏をし、コンサート後は、皆で歌ったりしたときにも使用してくれていたようだ。お土産に喜んでくれた。

・放課後等デイサービスブロッサムジュニアよみうりランド駅前(30名参加)では、就学、未就学の児童たちが、親と離れた時間を友達同士と合奏を楽しんだ。普段の保育でも楽器を使ってくれるようで、後日飾りつけをする予定。迎えに来た保護者達にも好評だった。

・放課後等デイサービスシャインさぎぬま(30名参加)は、比較的中高生が多く、合奏の内容も把握してくれ、自分の選んだ楽器を喜んでくれた。

②コンサート 30分【聴く・見る・歌う・踊る】

③体験コーナー 20分【リズムに合わせる・体験する】

就労施設の2施設では、普段お仕事で忙しい利用者向けにリラックスした時間をもうけようという施設側の思いを受けての開催であったので、終始会場の皆が一緒になって楽しんでくれていた。楽器体験では車いすの方や、手が不自由な方もいたが、打楽器はすぐ音が出せるのでそのことに喜んでもらえた。近くで本物の音楽をとっても楽しんでくれていた。放課後等デイサービス ブロッサムジュニア読売ランド前は、普段から音楽に触れているようで小さなうちにもっと可能性を広げたいという思いで開催に至ったので、最初は音の大きさにびっくりしていたが、次第に笑顔になり、最後の楽器体験は鳴らしやすいトーンチャイムで急遽合奏を行って楽しんでくれた。

放課後等デイサービス シャインさぎぬま(TWO3)は、比較的大きなお子さんたち中高生が主にいて思春期もあるが、参加については、最後まで落ち着いて見学してくれたり、団員との交流を求めたり、個性に満ちて参加してくれた。得意な分野が多く、曲あてクイズや最後の楽器体験で仲間同士楽しい時間を共有していた。

■感染者予防対策

感染者予防対策については計画通り徹底できた。さらに開催時間を短めに設定し、工夫しながら、施設との話し合いの元当日を迎えることができた。

※アンケートから引用「加湿器、演奏者とのパーテーションがあって対策がしっかりしていたので外部の方を呼べたし、外出が厳しい時代に来てもらった開催はありがたかった。」

【実際の効果と課題】

子供たち、就労支援利用者の方々、本人にスポットあてたイベントとなることはできた。

※アンケートからの引用 聞くだけでなく参加できたことが良かった。本格的なコンサートの部分と、親しみやすい曲、たくさん面白い楽器を聞かせて、触れさせてもらえてよかった。なかなか障害を抱えている子供、大人たちは経験できないことが自分たちの施設で参加できてよかった。普段は音に敏感な利用者も飽きずに楽しめた。事前に送ってもらったキットで打楽器制作してその楽器と本格楽器の合奏は楽しめた。

※コロナ対策の徹底により参加者は自分たちの施設で安心して参加できたようだ。

一方で新型コロナウイルスの影響で、なかなか保護者や近親者の顔が見えないイベントとなった。施設の方々から後日好評な内容だったと言われ、保護者の方の YouTube での感想で内容の充実を実感できた。

実際その会場で利用者の方や子供たちの目の色が変わり、自然とリズムに乗ってしてくれるところを見ると、音楽はこの時代に必須であると思えた。

この先多大なる成長の可能性がある未就学児は、たった1日のコンサートで大きな影響があったと願う。本人の音楽に対する興味の高さに開催の意義が大いにあった。その気持ちが今後にも継続してつながるように、オリジナル楽器をプレゼントできたことはよかった。今後もその楽器を施設内で使うと話していた。

中高生達は音楽に対する興味もそうだが、仲間とイベントに参加する楽しさを感じ、演奏者との会話で社交性を養う機会ができ、これから社会で必要な事を少しだけ体験できて欲しいと思った。好きな曲を聴くアンケートではたくさん曲目を答えてくれていて、いろいろなきっかけが元でこれからもいろいろなことに興味を持ってもらいたいと思う。

就労支援の利用者たちは、ただ単に楽しい時間を過ごして、日ごろ感じている作業での疲れを癒す一日として役立ったことは団体として嬉しい。

昨年実施したオンラインとリアルコンサートのハイブリッドは、施設のプライバシー保護のためやらないところもあった。配信は限定配信に関わらず、現場では、保護者の考えを統一することはできなかった。普段の子供の様子、コンサートを楽しんでいるわが子を見たい親、家族と、世間に絶対さらされないよう守りたいという意見は真っ二つに分かれ、まったくやらないほうに流れた。施設としてもいつもその意見を聞き難い立場であると思えた。配信実施したところには家でも家族と楽しめ、その思い出について家族と話し合えるツールとをプレゼント出来てよかった。

事業を通して、体験型コンサートとしては、参加者や施設側からは好評価をいただき、満足いく内容で終わられたが、その一番近くで本人を支えている家族のサポートまで到達できなかった。障がいを抱えるご本人とご家族とともに大変な時代に突入してしまったが、いつか必ずこの時期を笑顔で乗り越えたと思えるような1日をつくってあげたい。この本事業活動を続けられるよう、企業との協働や、協力者を見つけることにこれからは団体も動いていきたい。

障害があっても打楽器なら気軽に本物の音楽を体験できるという団体の特色も今後も生かし続けて、共感してくれる人とのつながりを広げた先に、資金面でもつながるものを見出したい。